

一、ソ米首脳会談
 一二月八日から始まつた第三回ゴルバチョフ－レーガン首脳会談が今日終わつた。この首脳会談で、歴史的なINF全廃条約が締結された。さらに、戦略核兵器五〇%削減についても、話し合ひが進んだと言われる。NATO諸国も、それによる矛盾を抱えつつも、核軍縮へむけた歴史的な第一歩には、歓迎の立場を示さざるをえないものとなつた。NATO諸国は、これ以上の核軍縮を示す。

縮を望まないという立場をうち出ししており、西欧諸国から米帝の核軍事力がなくなつてから生ずる通常兵力の東西不均衡問題を早急に解決することをうち出している。INF全廃条約としては、複雑な立場を表明せざることをえなかつた。そうしたNATO諸国にとっては、復讐の軍事費増大につながるNATO諸国とのつて、今後の中心問題は、いつたん戦争となつたら、戦場となるをえないとこは、一般的には、東であれ西であれ、歐州における通常兵力削減問題としてあるのである。

同時に、この首脳会談においては、地域紛争の問題が討議されている。アラブ首領会議は、「LIC」（低度戦争、紛争）と位置づけ、各

ソ米首脳会談と中東激動	1
88年にレバノン新内閣樹立、そして、1990年のレバノン問題	8
解決までは、前途多難な道（資料①）	14
「日本人コマシド、リッダ空港襲撃」（資料②）	14
キビヤ作戦図（資料③）	14
特別声明：「丸岡同志の逮捕を許さない」	15
激動の中東ドキュメント（1987年11月1日～12月8日）	15
編集後記	20

ソ米首脳会談と中東激動

一九八七年一二月一〇日



発行 ウニタ書舗
 東京都千代田区神田神保町1-52
 TEL. (03) 291-5533
 編集 J.R.A.
 郵便振替 東京1-48443
 三菱銀行神保町支店 当座9012656
 会員制 年会費20000円

目次

ソ米首脳会談と中東激動	1
88年にレバノン新内閣樹立、そして、1990年のレバノン問題	8
解決までは、前途多難な道（資料①）	14
「日本人コマシド、リッダ空港襲撃」（資料②）	14
キビヤ作戦図（資料③）	14
特別声明：「丸岡同志の逮捕を許さない」	15
激動の中東ドキュメント（1987年11月1日～12月8日）	15
編集後記	20

南イエメン、チニニアジア、レバノンの六ヵ国でしかない（レバノンのジエマイエル大統領は、カイロ訪問をしているが）。

あるガルフの新聞は、エジプトとの復交は、「キャンプ・デービッド合意破棄を、エジプトに促すため」と主張している。さらに、あるアラブ外交官によれば、「アラブとしては、キャンプ・デービッドは許せないが、現在のイラシ・イラク戦争でアラブの隊伍を整えるには、エジプトをアラブに復帰させねばならないのだ」そのことである。これはヨルダンのハッサン皇太子が発言したように（一月二九日、アンマンで開かれたヨーロッパ・アラブ対話会議）、「キャンプ・デービッドは、国連決議二四二、三三八の実質的達成の前例」として、アラブ世界が政治的に歩国家が反対したためである。強硬策をとつてガルフ戦争を悪化させるのではなく、まず停戦条件を整えることのほうが得策という主張であつ

エジプトとの各国レベルでの関係回復を承認する決議を通すことに成功した。シリアに対する財政援助の約束とひきかえに、シリアからの妥協をひき出したと思われる。

アラブ反動の意志は、どこにあるのかといえば、即目的には、対イラブ反動の側は、ガルフ戦争問題では強硬決議を通せなかつたものの、エジプトとの各國レベルでの関係回復を承認する決議を通すことにしており、イランとの攻撃的となつてゐるクウェートは、アンマン・サミット開会後二日目にエジプトと復交し、その翌日には、エジプト軍事代表団をうけ入れている。ムバラク大統領は、「エジプト軍の海外派兵を行う考へはない」としているが、この動き一つをみてみると、アラブ反動の本音は明白である。つい最近、サウジアラビアも、それまで入れていたパキスタン軍を帰国させた。エジプトの軍事力に期待しての動きなのである。帰国させた理由として、パキスタン軍は、シリア派も入っているということが挙げられている。

これらの動きは、ガルフ戦争、ときにイラクが火をつけたタンカー戦

カ事件等の問題をおこされているガルフ反動諸国が、米帝、他のNATO諸国の艦隊に依存することによって生ずる戦争拡大の危険性を避けつつ、アラブとしての軍事力、とくにエジプトの兵力をくみ入れることによつて、イランと対峙していくこうとしている。ただし、イランから直接的攻撃対象となつてゐるクウェートの場合は、他の反動諸国よりもせつぱつまつてゐる分、一二月に入つてから、とうとう「人道的・技術的緊急援助を外国海軍に与える」という決定を下すに到つた。今年の初めから、クウェートは一貫して超大国をガルフ戦争にひき入れることによつて、イランの攻撃をかわそうとしてきていたが、建前的には、外国の軍事基地を設置せず、クウェートの軍事基地・施設を外国軍に使用させないといふ路線を掲げてきてゐた。しかし、この決定が、米海軍が浮きふ頭をクウェート領海に浮かべて使用することをも含んでゐるのをみれば、従来の建前ですら、もはや転換させたことが明白である。

産油国の不景気から、出稼ぎ労働者が続々と帰国し、国庫収入第一位を占めていた海外からの送金が激減し、国内の社会・経済問題が悪化している。しかも、アラブの領土防衛という大義がある。国内の人民感情は、エジプトがイスラエルと単独和平を締結して約一〇年たった今でも未だに、反イスラエルの立場を堅持している。アラブ反動のエジプトとの関係回復にも、エジプト人民は、断固として反対していくだろう。なぜなら、エジプトのアラブへの復帰ではなく、アラブ反動のキャンプ・デービッド路線への投降であることが明確だからである。エジプトの政治的復権が認められたということは、キャンプ・デービッドをあいまいにし、イスラエルとの直接交渉条件を準備していくものである。

た各地域人民は歓迎している。中東においても、ガルフ戦争における米帝の軍事介入と戦争の拡大といふ政策に対しても、緊張を緩和させるためにソ連の軍事力をガルフから引き揚げる、また、イラン・イラク双方への働きかけを行い、いたずらに戦争拡大を計るうとする米帝の政策と対称を成していた。こうした緊張緩和のソ連および帝進歩勢力のイニシアチブは、米帝とその手先の軍事冒険主義を政治的に孤立させることにおいて、意義のあるものであった。

同時に、中東におけるもう一つの紛争であるアラブーイスラエル問題においても、今年に入つて、国際和平会議について、さらに声高に呼ばれてきた。とくに、この国際和平会議は、ヨルダン反動、エジプト反動を軸に、シオニスト・シモン・ペレスを含んで、直接交渉への道を開くものとしてあつた。ソ連も、この国

和平がパレスチナ人民の解放闘争を前に進させるよりも、パレスチナ人民の民族解放、民族自決を求める闘いを抑え、ヨルダン反動とイスラエルによる共同支配にむかわせるものだからである。

アラブ・レベルにおいても、反動主導の和平イニシアチブは明確になっている。一月八日からアンマンで開かれたアラブ連盟の緊急首脳會議において、エジプトとの国交回復を各国レベルで行うことを承認する決議を行っている。これは、客観的には、アラブ連盟が、対イスラエル直接交渉を行うことの承認をしたのになっている。

こうした決定、和平は、アラブ人民、とりわけパレスチナ・アラブ人民にとっては、許しがたいものとしてある。和平イニシアチブの問題について、他の地域では、緊張緩和と和平の動きが進歩勢力のイニシアチブで進められていても、その動きが



国の交渉の枠内で、レバノンの「独立」を確保していく立場を表明している（資料①参照）。右派にとどては、米帝がLFに対する積極的な後押しを行わず、シリアとの関係を重視していることから、軍事的にはシリアに対峙していくのが困難になつている。シオニスト自身の経済的疲弊とそれによる政治的孤立をも作り出した。そこから、今度は、アラブ反動との関係において、レバノンの「独立」＝シリア軍の追い出しを計る方向へと転換してきたのであつた。そして、中東の反動勢力の流れとなつて、中東和平国際会議の中に、レバノン問題を入れることによつて、自らの立場を有利にしようとしているのである。

シリテは、反ジェマイエル・反LFでのモスレム左派勢力の統合を計るために、統制の緩和を行つてきた。それが、モスレム左派勢力内の矛盾を緩和し、レバノン南部レジスタンスの高揚を作り出すことになつた。また、アラブ反動がアンマン・サミットにおいて、アラブの大義としてある対イスラエル政策をあいまいにして、エジプトの実質的な復権を計つたことに對する人民の側からの批判として、シオニストの手先「SLA」

アーチーの死

「こうした対シオニスト闘争の高揚は、「キャンプ戦争」の終結努力を促進することとなつてゐる。

他方、右翼は、軍事的にシリア軍の治安維持の無効性を示すために、ペイルート空港、アメリカ大学病院等の罪のない人々が集まる場所に対して、テロルをかけてきた。とくにだまして女性に爆弾をもたせ、そのまま女性もろとも爆殺するなど、悪らつな手口に出でてゐる。

こうした状況下で、ジェマイエル政権の無能から、経済はいっこうに改善されず、人民の生活の困難状況が続いている。

(4) 被占領地の闘い

先月にひき続き、ガザを中心、連日のようなレジスタンスが、被占領地人民によって担われた。

とくに、一二月八日、イスラエルのタンク・ローリーがガザでパレスチナ人四人をひき殺し、五人を負傷させたことが引き金となり、西岸、ガザ一帯の蜂起状況となつていった。この「交通事故」は、その二日前の一二月六日、ガザでユダヤ人実業家

力続している

争の高揚。結努力を。また、後。シリア軍ために、大学病院場所に対。とくに。せ、その悪らつマイエル。つこうに。困難状況。

中心に、が、被占スラエルでパレス一人を負傷、西岸、ていった二日前の人実業家

火炎ひんを切
二二〇四

が刺殺され、ファタハのアラファト派が責任表明したことに対する報復でしかなかった。さらには、キビヤ作戦後、いつそう不退転の意志を強めて鬪う被占領人民に対する弾圧でもあつた。九日には、ガザのジャバリア・キャンプで、イスラエル軍がデモ隊に発砲し、パレスチナ人一人を殺し、パレスチナ人の子供九人を負傷させた。翌一〇日には、西岸の人民も、ガザに呼応した。イスラエル軍は、やはり発砲し、多くのパレスチナ人を殺傷した。

この闘いは、激化していくだろうイスラエルの占領政策の実態を、世界中が毎日目撃することになる。実弾で射たれてもひるむことなく投石し、火炎びんを投げ、素手で占領者に立ち向かうパレスチナ人民の意志は、反動イニシアチブの中東の「和平」の流れを変えていこうとしている。なぜなら、人民のレジスタンスが持続すればするほど、イスラエルは疲弊してゆくしかない。

ア相者を

隊長以下六名の兵士た。部隊残る二名。スで作戦。イス、行物体三〇分の中ではいた。「然とした。恐れ付近一帯。真昼のスチナめぬまやり、射つた。醜態を誘拐さて付近は、軍事している。イゾー銳の電植村防を行つレーダ・グラ。

ト四名の部隊は、イスラエルをせん滅し、五名を負傷させた。作戦部門は二名の戦死者を出したが、無事生還し、ダマスカスで輸送機に搭乗して、UFO（未確認飛行物体）の飛来警報が発されてからも経過しているのに、テントトランプに興じ、TVを観て「国境警備」の軍規弛緩にあつた。字義通り寝込みを襲われ、コマンドの部隊規模もつかま、混乱の中で、同士うちを人植者をコマンドと誤認して、敵前逃亡兵を出したりのさられけ出した。「コマンドにされた」と称して、戦闘を避け、にひそんでいたイスラエル兵法会議にかけられ、処罰され、レバノン内に「セキュリティ網」を設置し、国境には最新の子監視装置、そして、北部入衛もかねた軍事キャンプ配備でも、ゲリラは死角をつけ、網をかいぐって、ハングィダーで突入してきたのである。

は、アラブ対イスラエルという紛争の真の姿を、ますますアラブ－イスラエル統合支配政策を、実体的に進めているのである。

況は激化している。サ

る体制にはなったものの、国際的なイランの孤立化という点では、人質問題で、仏が独自展開をし始めた。そして、西独も、イラクにとつては道義上不利になる毒ガス兵器問題を出し始めている（日誌、一二月二日）。

こうした戦況下、日帝は、イランに対しても、あいまいな態度をとっている。一方において、米帝の機嫌をうかがいつつ、米帝のとっている対イラン軍事介入を支持している。他方では、石油確保のために、イランとの関係を続けるために、イラン外相に対して、国連決議五九八号のうけ入れを働きかける一方、イラン石油輸入削減を要求する米帝の規制には、あいまいな態度をとった。つまり、米帝に対しては、八八年度輸入幅は八七年度輸入分以上増やさないから制裁であるとして、イラン側に対しては、八七年度と同幅の輸入を続けるから制裁ではないとしているのである。

アンマンでのアラ

したがって、これが、日米間の新たな火種になることは間違いないく、米帝は、第二、第三の東芝事件を使うことになるだろう。

イラク側が、アラブ緊急首脳会議でのエジプト復帰をもって、対イラク対峙を固めようとしている。現在、イラン側も攻勢によつて、イラクーアラブ反動を圧倒することを必要としている。ここから、陸上戦において、イラン側の強化が予測されよう。

同時に、イランが陸上戦で強化すること、つまり、アラブ領土の占領を行うということは、アラブ反動の立場のみならず、シリア・リビア等の反帝進歩国家の立場をむずかしくする。

(3) レバノン情勢

アンマンでのアラブ緊急首脳会議後のレバノン情勢の特徴は、一つには、南部レジスタンスが、以前にも増して強化されたことである。次には、右翼勢力による反シリア・テロルの活発化、そして、右翼側が国際会議でのノーバン問題解決を言、出

大統領との和解の申し入れをけられ
た後、エジプト・UAE等を訪問し
て、緊急首脳会議で、自らの対シリ
アの立場を固めようとしてきた。し
かし、緊急首脳会議では、レバノン
問題は、ほとんど議題化されなかつ
たに等しく、レバノン経済危機に対
する援助決定にとどまつた。アラブ
反動の力を利用して、対シリアの立
場を強化せんとしたジェマイエル大
統領のもくろみは成功しなかつた。
そこで、再び、西独・仏等西欧帝国
主義国を歴訪し、それらへの依存に
よつて、立場を固めていく方向に向
かわざるをえなかつたのである。こ
れは、ジェマイエル大統領の無能ぶ
りを再び示すことになつた。

同時に、右派内でジェマイエル大
統領に敵対しているLF（レバニー
ズ・フォーシズ）は、ジェマイエル
大統領の無能をモスレム左派勢力の
問題に転嫁しつつ、新たな政策展開
をうち出してきた。LF副司令官の
パクラードウニは、中東和平国際會議
にレバノン問題を独自の問題として
問題提起することを提案し、ノルウェー

くりひろげる鬪うパレスチナ人民に呼応したものである。これこそ、イスラエルが最も恐れてくれたものなのである。

大失態、志気低下を挽回するべく、シャミルは、報復を考えているのだが、ワシントン・サミット中はおさえよう、米・欧帝国主義が必死で圧力をかけている現状である。すでに、レバノン南部への再侵略部隊は、サイダ東部のジャージー・ベカーの交差地點に終結している。サミット後、イスラエルがどう対応するのか、これが今後の中東の動きを左右する一つの要素となっている。大反撃を行えば、「平和と領土の交換」は交渉する気がないという事態に直面し、「アラブ・世界レベルでのパレスチナ民族解放闘争への支持・共感」が重視されている。帝国主義支配に抵抗する闘争はテロールではないし、帝国主義が強要する「地域紛争解決方式」に抵抗するのも、テロールではない。南部・ベカーでは、イスラエルの反撃は当然くるものとして、臨戦態勢を続いている。イス

ラエルの反撃は、アラブ反動へのゆきりとならないのだから、レバノン・パレスチナ人民は、志気高く、臨戦態勢をとり続けるのである。

キビヤ作戦は、PFLP-GCが実行したものである。しかし、この闘いは、南部レバノン、被占領地人の勢力がこの闘いを支持している。この闘いの意義は、第一に、パレスチナ革命が、イスラエル内の攻撃目標を選び、シオニストが張りめぐらせた防衛線を越えて、計画通りに攻撃できる能力を示したことである。

第二に、雪崩をうつて、エジプトと南アフリカの関係改善、投降主義に走るアラブ反動に対する拒否を示したことである。第三に、反動に対し、人民の側からの明確な拒否を示したことである。第三に、「和平」は、こうした人民の意志と政治的実現のための手段である。

再び、アラブ民族主義の真の敵、シオニストと米帝にむけた闘いとして活性化させる意義を持つのである。こうした闘いの意義を持つがゆえに、レバノンに對するシオニストの大規模報復行動が予測されていた。南部レバノンのパレスチナ・キャンプは、キビヤ作戦の攻撃と同時に戒厳態勢をとり、シオニストからの攻撃に備えた。シオニストは、二〇〇〇人の部隊と戦車を、一二月八日、レバノンへ再侵略させていた。

しかし、ソ米首脳会談を控え、米帝は、シオニストが大規模報復行動を行った場合、首脳会談における米帝の立場を悪くすると判断し、ソ米首脳会談まで、攻撃をひかえるようシオニストに圧力をかけた。また、大規模報復攻撃は、直接交渉による拒否を示したことである。第三に、反動に対し、人民の側からの明確な拒否を示したことである。第三に、「和平」は、こうした人民の意志と政治的実現のための手段である。

闘いなしにはありえないことを示すことができることである。そして第四に、この闘いは、何よりも、被占領地人民、南部レジスタンスに対して、頭の先進み始めたアラブ反動を、もう一度元におしもどしていくことになるので、シオニストに圧力をかけた。また、シオニストに圧力をかけた。また、ガルフ戦争における、イラクの攻撃的姿勢も、アラブ反動を動化させる様相を呈している。

以上のよう、キビヤ作戦に象徴される人民の意志は、アラブ緊急首脳会議以降のアラブ反動の投降主義から遠ざけることになるだろう。

1988年1月31日 第30号

搜索した結果、子供の飛ばしたタコが、糸が切れ、レバノン南部の「セキュリティゾーン」へ流れていったことが判明した。この嚴戒態勢に一五万ドルを費したとされる。そして、一二月三日には、北部軍管区司令官を解任し、さらに実情調査を継続すると発表していた。一方、首相シャミルは、キビヤ作戦の背後にシリアルがいると、名指しでシリアを非難し、一月二八日から戦車を含む二〇〇〇人の部隊をレバノンに再侵襲させた。

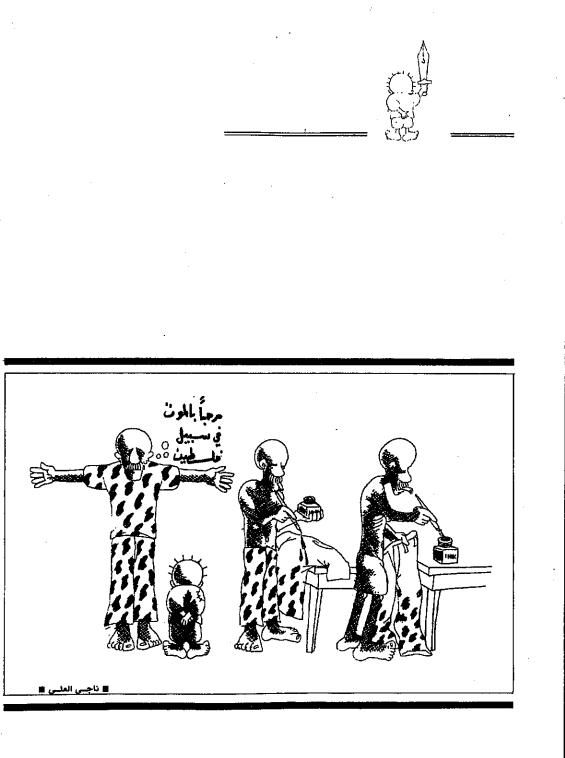
こうして、キビヤ作戦以来、レバノン南部、ベカーでは、イスラエルの報復が予測され、緊張は高まっている。キビヤ作戦とは、一九五三年一〇月一三日に、エルサレム北部のキビヤ村をイスラエル軍が大虐殺した（七〇人以上が殺され、家屋は全部破壊された）ことから、名前をと

アラブ紙全体の紙面トップを飾り、アラブ民族の英雄、快挙と讃えられている。ガルフ戦争記事、ワシントン・サミット問題で彩られてきたアラブのマスコミの眼を、一挙に対スラエル戦争へと転換させたのである。

また、この闘う意志は、アラブ緊急首脳会議で、キャンプ・デービッドにおいては、アラブ反動のイニシアチブの下で、「和平」に流れていっている中東において、あくまで大義のために抵抗するというパレスチナ人民の意志表示としてあつた。この作戦は、連日のように、レバノン紙に限らず、アラブ紙全体の紙面トップを飾り、アラブ民族の英雄、快挙と讃えられている。ガルフ戦争記事、ワシントン・サミット問題で彩られてきたアラブのマスコミの眼を、一挙に対スラエル戦争へと転換させたのである。

また、この闘う意志は、アラブ緊急首脳会議で、キャンプ・デービッドにおいては、アラブ反動のイニシアチブの実質的復帰を許したことへの人民の回答でもあつた。

そして、敵シオニスト・イスラエルに対する回答では、国論分極状況に対し、ゆさぶり攻撃であった。アラブとの政治交渉の枠をどうするのかと、いう形で進行しているイスラエル内域会議と称する直接交渉方式かで、ペレスとシャミルが対立している問題）に対し、問題の中心は、パレスチナ人民自身が自らの意志で運命を切り拓いていく解決であるということを、つきつけたのである。正義性において優れている反帝の民族解放闘争の有効な展開の仕方を世界に示し、圧倒的な軍事力を誇るイスラエルが、実は人民の包囲の前では、軍事的にもすきがあるという事実を証明した。西岸、ガザにおいてのみならず、南部レバノン、そしてレバノン国境から潜入してくるコマンドのゲリラ戦は、不屈にレジスタンスを



問…レバノン軍団は、レバノン内のイスラエル派を代表しているといえないでしようか？　あなたが、フランス人がシリア派を代表しているというような意味で。

答…元大統領のフランジエは、シリアの占領下にあるので、いやいやシリアの政策を実行しているのだ。ところが、レバノン軍団は、イスラエルの占領下ではなく、イスラエルの押しつけた計画を実行しているわけでもない。レバノン軍団は、独自のレバノンとしての決定を表現している。一九八六年の一月一五日から、我々レバノン軍団が独自の決定をしており、いかなる外国の利益よりも、レバノンの国民的利益を第一にしているということを証明してきた。我々が保っているのと同様のアラブ関係を持っている者は、イスラエルの考える計画を実行などできない。我々は、国民的な独自判断、決定を実行するのである。

争の種は？

答..「（シユーフ）山岳戦争」そして、その結果、およびサイダ東部の問題に関する見方と利益が、対立している。

問..イスラエルが、約束した通りの援助を与えたからですか？

答..イスラエルは、シア派とドルーズを助けた。

問 ハノン人が我々の条件に対する信頼性をゆるがすことがないようにするため、分界点を保つておくのが、我の側からの現実的な対応である。

答 しかし、それは冗談だ。過去、ハンドバッグ爆弾をかけたのは、レバノン軍団自身で爆弾事件がレバノン軍団支配地区でおこったといいという事実に注目すべきという人がいます。

答 ッグ爆弾が爆発した時、レバノン軍団は、力が弱く、治安を安定化できないと非難する者がいた。現在、東側でハンドバッグ爆弾が爆発しないとなると、レバノン軍団が他の地域で爆弾をしかけたといわれる。こう

問……その関係を但下させたのはどういう意図から？
答……低下させているわけではない。
ただ、関係をみせつけるために、会議をする必要がないのだ。サミール・ジャジヤと大主教の会談は、いつもの普通の会談とみなしている。私は、大主教がレバノン軍団の精神的父だと考えているから。

違う出馬になるのでしょうか？

問…しかし、新聞報道が、レバノン軍団とイスラエルの会議が継続していると不斷に流していますが。

答…それらの報道は、ばかげている

問・レバノン国軍は、ベイルート分界地点の再開を一貫して主張しています。レバノン軍団が、再開の妨害物として非難されていますが、意見は？

いうわけで、レバノンで主要な要素に成長したレバノン軍団の信用をおとす狙いで、人為的なキャンペーンが張られているのである。我々に対するキャンペーンが強力であれば、逆に我々の実力を知るものとなるわ

答・大統領選挙が早まるのも、遅くなるのも、反対だ。憲法で定められた日程、原則に従つて大統領選挙を行うことを支持する。現在までのところ、レバノン軍団の候補は立てていなかつ。東側地区社会の総体、つまり、レバノン軍団、レバノン戦線、大統領、これらを、大統領候補は、代表することにならう。

問・スマッシュエイル大主教のパリ訪問時
主教が元大統領のフランジエ、元首
相のサラムと会見し、レイモン・エ
ッディ支持連合作りが始まつたとい
う報道が流れましたが、これについ
て、どう考えますか？

答・マロン派大主教は、マロン派か
ら立候補している一人を支持し、別
の候補を支持しないというようなこ
とはしないものだ。大主教は、キリ

問…ベリ大臣は、レバノン政治改革で合意できない時には、大統領選挙はないだろうとしていますか。

答…ベリはとくにレバノンにおけるシリアル軍の存在を合法化し、シリアル軍に有利なようにレバノンの合法性を消してしまわんがために、次の大統領選挙を妨害して、レバノンに憲法上の真空状態を作ろうとしている。

この点で、私はベリを非難する。しかし、選挙に関してつけてくるあれこれの前提条件から、この選挙をどうやって妨害しようとしているのかがみえていて。ナビーハ・ベリは、合意もする気がなく、大統領選挙をやりたくないのだ。合意に対する前提条件は、大統領選挙への前提条件である。

問…モスレムの四人の師が大統領に立候補していますが、どう考えますか？

答…彼らの立候補は、イスラム共和

問…しかし、元大統領のスレイマン・フランジエが、その合意の外にいるという事実と矛盾しませんか？

答…フランジエは、キリスト教徒内の合意を代表できる位置にないのだ。彼は、シリアの人質である。彼がレバノンに属していることを疑う者は一人としていないが、客観的には、彼は、シリアの圧力下に終生あるわけだ。キリスト教徒の合意という意味は、東側地域に存在する。そしてシリアル占領区以外の場所におけるキリスト教徒の自由意志について語っているのだ。

問…サミール・ジャジャをどう考えますか？ ファランジ党立候補として出馬するでしょうか？ それともう説明しますか？

答…单一候補に関して、東側地区の主要グループ間で合意に達せるものと信じている。

は無から紛争の火種を作ることはできない。が、現在ある紛争を拡大し大問題化することができるのだ。

以降、ファヤディ工事件を機に、同じことを始めた。元大統領サルキスは、レバノン国軍再建に全精力を費やしたが、レバノン国軍がシリア軍に従属しない限り、レバノン国軍として存在させないと単純な式でシリアがサルキスの努力に反対したのだった。このシリアの政策は、三者合意で、もつとはっきりした。ベイルート南郊、山岳部でおこったのは、レバノン国軍の内部崩壊の結果である。レバノン国軍は、民主的・文明的やり方で礼儀正しくレバノン人を扱ってきた。

問…ホス首相が、大統領は彼の口頭での辞任を受理できるし、ホスは臨時に首相代行を務めているのだと最近宣言しています。ジェマイエル大統領が、新内閣を組閣していないのは、過ちだと考えますか？

答…何も文書にした辞表である必要はないし、辞任した状況にあるとか合法的でない状態だとホスが発言しているのは、当たっていると思う。彼は、死んだ人間の代行をしているのだから。

今年の五月カラミが辞意表明した時、そして現在、ホスが毎日のように辞めるところ返している時、大統

領が受理すべきだつたろうと、私は信じてゐる。このまま八八年の九月二三日を待つというわけにはいかない。耐え難い状況になつてゐる。だから、我々としては、火急速やかに新内閣を組閣すべきと主張しているのだ。

今日、我々にはジレンマがある。それは、政治的行きづまりに、経済危機だ。政治危機を最小におさえ、かつ社会・経済危機を最大限に解決するような内閣作りを我々はよびかける。そうすれば、現在あるジレンマは解決され、政治解決をかちとり、経済危機を終わらせることになるだろう。そうならない限り、この状況下では、誰も生き続けられない。

回避にむけ、八八年夏に、大統領選の準備、経済・社会的悪化の終結にむけた新内閣の組閣、そして、我々東側地区では、新内閣誕生まで、緊迫した社会情勢と対決していくこと。レバノン軍団は、設立した社会保険局に、毎月三〇万ドルの資金を出し、ているが、こういうことは、統けられるものではない。当面、責任を果たしていくつもりはあるが、大統領の任期満了まで責任を果たしていく政府の誕生を要求する。

聞ったのですが、現在は、友好的な関係にありますね。この矛盾は？ パレスチナ人が帰ってくること、対アマルの立場を支持したことですか？

答…我々は、どんな組織、國家、人とも、完全な敵対関係にあるのではない。いかなる國家・組織といえども、我々の内部問題に介入してたら、それには反対するが。PLOが我々の内部問題に介入してきた時、我々は一九八三年まで、PLOに抵抗した。PLOが介入を止められた時、我々はPLOに接近した。我々の主権、これが基準である。我々の主権を尊重する者には接近するが、侵害する者に対しては抵抗する。我々は、パレスチナ人の武装存在と、非武装存在とを区別して考えている。レバノン領におけるパレスチナ人の武装存在には反対してきましたし、現在もその点は同じである。同時に、パレスチナ人のレバノンにおける非武装存在は守られねばならないし、それはレバノン国軍の任務なのである。レバノン国軍にそれができないといふなら、国際的軍隊の援助をうけねばならない。アマルとパレスチナ人

スチナ対シリアの枠組内の問題だけを考えている。パレスチナ対シーア派という性格では片づけていない。アマルは、全シーア派を代表しているのではなく、反パレスチナというシーア派のアラブの政策を遂行しているのであって、反パレスチナというシーア派の政策を遂行しているのではない。

は開期中の閣僚評議会によつてなほしむられるのが筋だからだ。レバノンにおけるシリア軍の存在は、アラブ連盟が一九八二年八月アラブ平和維持軍の任期延長をしなかつたその時点における合法性を失つたものと信じている。したがつて、一九八三年、大統領がシリア軍の撤収を命じたのに、シリアはアが従わなかつた時から、シリアは不法に、レバノンに駐留していると信じている。

シリアは、西ベイルートで問題の元凶だし、西側の戦闘の原因でこそあれ、解決策たりえてもいいない。マル、PSP、パレスチナ人、ハビッラー間の闘争の責任は、シリアにある。これは、シーア対スンニという宗派間闘争だからだ。内部紛争に乗じて入りこむというのが、シリアの常套手段だ。パレスチナーレバノン紛争に乗じてレバノンに入りこみ、モスレー人同士の紛争に乗つてどうベイルートにまで入つてきたし、パレスチナ人同士の紛争に乗じて、トリポリレバノン北部に入りこみ、モスレンニという紛争に乗じてサイダに入つた。今や、パレスチナ人対

問…モスレム区でのあらゆる紛争、背後にシリアありとのことですが、その立証はできますか？

答…シーア対スンニの紛争を後押ししているのはシリアとイランであります。シーアは対スンニ優先権を与えら、ムラビトゥーン等の部隊が消滅された後、元来のスンニ地区を我に占めに指揮した。ベイルートのスンニの指揮は、たとえばイスラム会議のように、追い出され、テロをかけられた。

シリアは、パレスチナ人対シーア派紛争の黒幕だ。キャンプ戦争も、ヤセル・アラファトを叩くために、アマルが行ったものである。五月七日合意破棄後、伝統的な指導部一つとしてのシーア派を犠牲にし、エジプト、イラク、パレスチナ人の縛からみた時のスンニ派をふみけて、レバノンにおける自らの政略計画達成の手段として、シリアはマルにかけた。また、アラファトも、イスラムとの関係をもつドルーズ派も、犠牲を強いた。確かに、シリア軍が入ったことで、問題が増えて進んだというよりも、問題が増えたのが実情だ。

- 国交回復を歓迎するとともに、「アラブ諸国が、イランとの関係を維持しているのは、悲しいことだ」と語る。
- ガルフ戦争
- イラン、タンカー二隻を攻撃。
- サウジアラビア、エジプトと国交回復（すでに、U.A.E、モロッコ、クウェート、イラク、北イェメン等一一カ国が国交回復した）。
- レバノン
- 南部
- サイダ港で、パレスチナ勢力対P.N.O（サイダのスンニ派。リーダーは、ムスタファ・サアド氏）の衝突。東部では、アマル対パレスチナ勢力が衝突。P.N.O対アラファト派の衝突が本格化。
- エジプト
- サダトのエルサレム訪問十周年記念日にむけ、エジプト与党外交委員会副委員長が、イスラエルを訪問。
- パレスチナ＝P.L.O
- ベツレヘム大学の学生、教職員が先月イスラエル軍に殺された同大學生の件につき、強くイスラエルを

ガルフ戦
一月一七日(火)

- イラン、建設中の原子炉をイラクが爆撃したと発表。すでに、核燃料を入れてあったので、 Chernobyl級の汚染が生じる恐れありとし、IAEの現場調査を要請。
- 西独外相、二日間のサウジ訪問を開始。
- レバノン
- 南部でのパレスチナ勢力対 P N O の衝突、続く。
- 西ベイルートで、ロシア十月革命七十周年記念集会。

ガルフ戦争
一月一八日(水)

 - 今日も、イラクがイランの原子炉爆撃。
 - カタール、エジプトと国交回復。
 - 西独外相、サウジアラビア訪問終え、イラクへ。
 - イランゲート事件調査委員会の報告書公表。
 - レーガン大統領に批判的。
 - レバノン

ガルフ戦
レム訪問十周年

- 今日で三日め、イラクがイランの原子炉爆撃。
- 日帝外務次官、停戦工作のため、イラクへ（その後、エジプト訪問予定）。
- パレスチナ＝PLO
- パレスチナ共産党代表団、初の訪中。
- エジプト
- ムバラク大統領、ヨルダン訪問。
- イスラエル
- ペレス外相、訪仏。
- 一月二〇日（金）
- ガルフ戦争
- イラク、イランのタグ・ボートによるエグゼ・ミサイルをうちこみ、タンカー一隻を爆撃。
- イスラエル
- シャミル首相、国際会議開催三条件提示。
- ① 国連常任理事国は、開会後、ひくこと。
- ② 直接交渉でつめる。
- ③ ソ連が、イスラエルとの国交回復すること。

- イラン国会議長、ソ連と新防衛条約交渉中と発表。イラン領へ連行した。
- ルーマニア大統領、二日間の公式訪問開始。
- レバノン
- 独立記念日四十四周年記念日。
ジエマイエル大統領、全外国軍の占領からのレバノンの解放をアピール。レバノン軍団のジャジャも、シリア等外国軍隊の撤退なく、レバノンの問題解決しないと語る。
- ホス首相、ヨルダン訪問。
- アンマン・サミット決定で、レバノン経済危機解決援助の方法につき、フセイン国王と検討するため
- シリア
- 商工会議所代表団、バグダッドへエジプト
- 反政府分子一七人の裁判スタート。軍内部へも反政府分子潜入があつ

- ・ アンマン・サミット不参加を表明
- ・ イスラエルとのタバ領土問題調停で、六〇日以内に妥協案を作る、妥協案が未成立の場合、国際調停委員会の決定にゆだねることに合意。
- 一月三日（火）ガルフ戦
- ・ クウェート国防相、対ミサイル・システム設置着手を公表。クウェート内務省近くで車爆弾。
- レバノン・シリア
- ・ アマルとパレスチナ側の九月一日合意の部分実行合意（キャンプへの物資搬入）。
- 一月四日（水）テヘラン米大使館占拠八周年
- ガルフ戦
- ・ イラン国会議長「米の侵略をうけて立つ用意あり」と語る。
- ・ イスラム・レジスタンスが、南部レバノン・シリア

ガルフ戦
● 国連総長の再度の停戦工作に対し、イラン、イラク双方が応じる姿勢みせた。ただし、両国とも主張内容を変更していない。

一月七日（土）

PLO

- アラファト議長以下代表団、二日からのソ連訪問終了。
- 無血クーデタ。米、エジプト等が新政権を承認。

一一月八日（日）

ガルフ戦争

- イラン、バグダッドをミサイル攻撃。さらに「何年間でも闘い続ける」とイランの立場表明。アンマン・サミット
- 本日から開会。
- レバノン・シリヤ
- ファタハ革命評議会派（アブ・ニダル派）、公海でイスラエル船拿捕したと発表。

- ・南部レジスタンス、イスラエル北部のガリラヤ地方三カ所にカチコ・シヤ・ロケット攻撃。
- ・シリア国防相をソ連海軍司令官公式訪問。
- 一月一〇日（火）イスラエル
- ・ヘルツォグ大統領、現職大統領としては初の訪米。レーガンと会談
- 一月一日（水）ガルフ戦争
- ・日本の石化タンカーが攻撃されたアンマン・サミット
- ・本日、声明発表し、閉会。国連決議をイランが拒否しているのを非難。
- レバノン
- ・南部レジスタンス
- シーア派が、イスラエルに対すこ
捕虜釈放要求デモ。
- ・ベイルート空港で、爆弾が爆発し
五人死亡。
- ・東ベイルートで、仏人実業家が殺

- ガルフ戦争
 - ・イラン、国民総動員発令。
 - ・クウェート、エジプトと国交回復。
- 一月一四日（土）
 - ・エジプト軍事代表団、クウェートへ。
- レバノン
 - ・アメリカン大学病院で爆弾。
- 一月一五日（日）
 - ・南部
- レバノン
- ・右翼
 - ・マロン派大主教、バチカンー仏ソ連工作から、本日帰国（二カ月の旅）。

- 北部軍管区司令官、キビヤ作戦の末、明らかになつたギドン基地の軍規弛緩実情を発表。
 - ハング・グライダー着陸二五分前から警報発して、指揮が不徹底。門にはガードが一名しかおらず、ほとんどの兵は、クラブへ行つていた。
 - 一月三十日（月）
 - レバノン
 - ジエザイエル大統領、西独訪問から帰国（帰国途中で仏へ立ちよつた）。
 - 西独政府は、三七〇〇万ドルの援助を約束。
 - ヨルダン
 - フセイン国王、バグダッドへ。
 - 一二月一日（火）
 - ガルフ戦
 - アラブ連盟内相会議。
 - イラン-仏関係
 - 仏、対イラン負債第二回分支払い（三三〇万ドル）の意図発表。米国務省スポーツマン、仏-イラン取引きを間接批判。
 - レバノン
 - 南部

- ・ 国会議員（七九人）の任期延長を、
　　国会が決議。
- ・ パレスチナ－PLO
- ・ エジプト国境から、ガザのイスラエル軍パトロールに攻撃（銃撃）。この事件を機に、エジプト政府は、エジプト在住のパレスチナ人が国境ごしにガザのパレスチナ人と交流するのを規制。
- ・ イスラエル
- ・ シャミル首相、キビヤ作戦の背後にシリアありと非難。
- ・ 世界シオニスト機構移民入植局局長、西岸へのユダヤ人入植者拡大計画を発表。むこう一二年間に一五〇万の移民を入れ、西岸での人口比（ユダヤ人対パレスチナ人）約一対一〇を、四対六に高める計画。
- 一二月二日（水）
ガルフ戦
- ・ クウェート政府、「在ガルフ外国海軍に対し緊急な人道的・技術的援助を与える」という決定は、外国の軍事基地をおかないという從来の政策からの転換ではないとコメント。
- ・ 西独、対イラク毒ガス取引問題で、一二の企業の捜査に着手。
- ・ イスラエル機がサイダ上空を偵察飛行。

- ・ イラン、イラク領を爆撃。一方、会談。
- ・ 南部
　　キビヤ作戦以来二回めの偵察・威嚇飛行をイスラエル機が行った。
　　英大使あて「小包み爆弾」（実はクリスマス・プレゼントの本だった）。
- ・ レバノン
　　中東和平国際会議
- ・ 国連総会が、同会議開催決議。替成一二九カ国、反対二カ国（米、イスラエル）、棄権二カ国。八五〇〇万ドルを総会に要請。
- ・ レバノン
　　ガソリンスタンド・スト。
　　キビヤ作戦部隊部隊長アブ・タヘルが西ベイルートで記者会見。
　　国連総長、レバノンへの緊急援助ヨルダン
- ・ キビヤ作戦につき、北部軍管区司令官が解任された。また、逃亡兵
- ・ リファイ首相、エジプト訪問。

- ガルフ戦
- イラク、イランのファラシ島へのミサイル攻撃で、まちがえてサウジの島を攻撃。
- グロムイコ大統領—イラン駐ソ大使会談
- ソ連の側は、「停戦決議五九八が実行されないと、付帯事項（決議拒否国に対する武器禁輸）発効となるので、停戦するよう」申し入れる。イランの側は、「全外国艦隊のガルフからの撤退」を主張。
- イラン、クウェートの対米浮き頭利用許可を非難（クウェートが領海の浮き頭を米海軍が軍事的に使うことを、クウェートが許可した件）。
- 一二月五日（土）
 - ガルフ戦争
- G C C 第一〇回商業相会議（リヤドで）。
- 南部レジスタンス
レバノン
ジャジーンで、レジスタンスが、大規模攻撃かけ、「SLA」兵三名をせん滅。「SLA」は、サイ

- イラン、来月特使を国連へ派遣するとの発表。
 - ジュマイエル大統領、西独訪問（六日間）開始。
 - ベリ南部相、ダマスカスで、アサド大統領と会談。
 - イスラエル
 - 非公式訪英中のペレス外相、サッチャー首相と会談し、中東和平国際会議開催につき合意。
 - 九月から監視していた反政府地下組織網の手入れ、大量の武器捕獲を発表。
 - イラク、サウジアラビアのO.P.E.D大統領と会談。
 - カイロのP.L.O事務所にパレスチナ旗掲揚を許可。
 - 北部軍管区司令官、キビヤ作戦の末、明らかになつたギドン基地の軍規弛緩実情を発表。
 - ハング・グライダー着陸二五分前から警報発してたが、指揮が不徹底。門にはガードが一名しかおらず、ほとんどの兵は、クラブへ行つていた。
 - 一月三〇日（月）レバノン
 - ジュザイエル大統領、西独訪問から帰国（帰国途中で仏へ立ちよつた）。
 - 西独政府は、三七〇〇万ドルの援助を約束。
 - ヨルダン
 - フセイン国王、バグダッドへ。
 - アラブ連盟内相会議。
 - イラン-仏関係
 - 仏、対イラン負債第二回分支払い（三三〇〇万ドル）の意図発表。米国務省スポーツマン、仏-イラク取引きを間接批判。
 - 南部レバノン

- 西ベイルートのキヤンブでの衝突問題につき、パレスチナ組織、レバノン組織が会議。パレスチナ組織側は、アマル、第六旅団内の疑わしき分子を非難。ベリ南部相、九・一合意実行を提唱。実情調査委員会設置で、問題の究明にあたることになった。
- 人質問題
- テリー・ウェイト氏釈放にむけ、米民主党大統領候補のジャクソン師、中東入り。
- シリア
- ヨルダン国王、首相が、ダマスカス入り。
- イスラエル機がサイダ上空を偵察飛行。
- 国會議員（七九人）の任期延長を、国会が決議。
- パレスチナ－PLO
- エジプト国境から、ガザのイスラエル軍パトロールに攻撃（銃撃）。この事件を機に、エジプト政府は、エジプト在住のパレスチナ人が国境ごしにガザのパレスチナ人と交流するのを規制。
- イスラエル
- シャミル首相、キビヤ作戦の背後にシリアありと非難。
- 世界シオニスト機構移民入植局局長、西岸へのユダヤ人入植者拡大計画を発表。むこう一二年間に一五〇万の移民を入れ、西岸での人口比（ユダヤ人対パレスチナ人）約一対一〇を、四対六に高める計画。

- ・仏人人質二名、釈放された。シラク政権誕生（八六年三月）から、釈放された仏人人質は、七人め（五人と五人が捕えられている）。
- ・昨年夏のペイユルートのペンキ工場火災が、実は、西独－イラクの毒ガス兵器工場事故であったことが、被害者六人の治療を西独がひき受けたことから、明るみに出た。
- レバノン
- ・キビヤ作戦
- タング含む二〇〇〇人のイスラエル軍が、レバノン南部から侵略。西ベガード方向へ。また、イスラエルは、北部で再びUFO発見後、厳戒捜査態勢とった。南部のパレスチナ・キャンプ
- 一月二八日（土）
- レバノン
- ・イラン、イラク領を爆撃。一方、イラン特使が、国連で事務総長と会談。
- レバノン
- ・南部
- キビヤ作戦以来二回めの偵察・威嚇飛行をイスラエル機が行った。英大使あて「小包み爆弾」（実はクリスマス・プレゼントの本だつた）。
- 一二月三日（木）
- レバノン
- ・ガソリンスタンド・スト。
- ・キビヤ作戦部隊部隊長アブ・タヘルが西ペイルートで記者会見。
- ・国連総長、レバノンへの緊急援助八五〇〇万ドルを総会に要請。
- 中東和平国際会議
- ・国連総会が、同会議開催決議。替成一二九カ国、反対二カ国（米、イスラエル）、棄権二カ国（ハバナ四月までに、総長が準備活動報告書を提出すること。PLOがパレスチナ人の唯一合法の代表として出席することを規定している。
- ヨルダン
- ・リファイ首相、エジプト訪問。
- イスラエル
- ・キビヤ作戦につき、北部軍管区司令官が解任された。また、逃亡兵

- イラン－仏の大使館戦争、解決へ
　　パリのイラン大使館からゴルジ書
　　記官が出て、テヘランの仏大使館
　　からも一名出た。
- レバノン
　　・ キビヤ作戦－南部レジスタンス
　　レジスタンスが「SLA」拠点
　　を攻撃したのに対し、「SLA」
　　がナバティエ等を砲撃。
- ファランジ党創立五十一周年記念
　　集会、東ベイルートにて。党首サ
　　アデは、「レバノン国民の対話」
　　「八八年の大統領選を日程通り進
　　めよう」と演説。
- ヨルダン
　　・ 欧州－アラブ対話会議、アンマン
　　で開催。
- エジプト

- パレスチナ＝PLO
 - 西岸で、極右タヒヤ党議員の車に對し、リモートコントロールの爆弾攻撃。けが人なし。以來、西岸一帯で、ローラー作戦が展開される。
 - イスラエル
 - 西岸、ガザで、ゲリラ・ローラー作戦を行い、一四人のアブ・ムサ派の地下網を摘発したと、イスラエルが発表。
 - イスラエル・ラジオ、五〇日間の賃上げ要求スト解除。放送再開。
 - 蔵相、予算の大大幅カットうち出す
 - イランがデンマークのタンカー攻撃。乗組員一名死亡。
 - ベイルートで、「クウェート・モスレム解放機構」が、今年クウェート内で、石油施設攻撃闘争を行つてきたと声明発表。
 - 南部レジスタンス
　　ハジビッラーが、昨日の対「S.A.」攻撃の責任を発表し、戦果を「六名せん滅」と発表。
 - ダ東、西ベカーや砲撃する爆弾。

●人質問題

- 英紙、仮人質解放問題につき、
仮側の譲歩を暴露。

①二人の釈放に、五〇〇万ドルの
身代金を払った。

②ガルフから仮艦を徐々にひくと
の密約。

・西ベイルートのコーラ通りのシリ
ア軍検問所が襲撃された。

・元大統領フランジエ氏、ダマスカ
ス入り。

パレスチナ

・ガザで、イスラエル人入植者が一
人、ナイフで刺殺された（以来、
緊張高まる）。

ヨルダン

・ヨルダン国王、カイロへ。

イスラエル

・第三回ユダヤ人会議、エルサレ
ムでスタート。

一二月七日（月）

ガルフ戦争

・イラン、クウェートのシー・アイ
ランド石油積み出し基地周辺を、
シルク・ワーム・ミサイルで攻撃
(一〇月二二日から二回めのミサ
イル攻撃)。

・イラク外相、訪米。今日は米国務
長官と会談。明日、国連総長と会
談予定。

編集後記

- イラン－仏
仏当局、ムジャハディン・ハルクの仏内のアジトを手入れ。その後反ホメイニ派イラン人一〇人をガボンへ追放。
 - イスラエル
イラン－仏
 - 欧米帝諸国から、レバノンへの報復攻撃を控えるよう、イスラエルに申し入れあつた。米帝は、「レバノン国境に、イスラエル軍二〇〇〇の部隊が集結している事実はない」と報道。
 - ガルフ戦争
全戦線にわたって、イラン、イラクで砲撃戦。
 - イラン、クウェート領海に、シルク・ワーム・ミサイルを発射。

情勢的な問題といえば、『赤軍閥固めています。与説』が流された大韓航空機行方不明事件もありました。こうしたことを行はざるを得ません。第一に、この事件が起ったことで得するのは、北の脅威を叫ぶ全斗煥一味のみです。第二に、バグダッドからの大韓航空機の乗客は、出稼ぎ労働者がほとんどであり、解放と革命をめざす人が、狙う意味がありません。第三に、韓国が『爆破犯人』といつている男女の不可解な行動です。私達のみならず、アラブの人々も、なぜ、つかまるようなルートをとるのだろう?』と首をかしげています。

敵の策謀が、韓國大統領選、ソウル・オリンピックをめぐって、うごめいています。日米韓の新たな反革命体制が構築されていっていることを感じます。

パレスチナ戦士によるハング・ダライダーの英雄的な戦闘、被占領地の人民の決起、それに対する敵イスラエルの凶暴な弾圧は、南レバノンへの侵略の開始として、今、始まっています。

国際主義の立場からの鬨いが今は問われている時はないと思います。